



ともに支えるやさしい社会

※PalCato (パルカート) ▶ 英語のpal(仲間、友だち)にちなんだ【パルシティ江東/Palcity】と、イタリア語で1音1音をはっきり演奏することを示す音楽用語【マルカート/Marcato】をあわせて、一人ひとりの生き方を認め、心豊かな社会を推進する広報紙名としました。

男女共同参画推進センターの学習講座『こどもお料理団』



## 見方を変えれば社会が変わる！ 誰もが輝ける社会をめざして

男女共同参画社会とは、誰もが「自分はこうありたい」という志向を尊重され、個性や能力を活かせる暮らしやすい社会のことです。私たち一人ひとりが自分の中にある「ある意識」に気づき、見方を変えてみることで、男女共同参画社会の実現に向けた第一歩となります。

### それは「当たり前」？

「女の子は料理を手伝うのが当たり前」「男の子は泣かない」「お茶汲みは女性の役目」「男性は育児休暇を取りづらい」

このように、私たちは家庭や地域・職場で無意識に、性別を理由として、自身や周囲の人を縛っていることがあります。

これは、「男性・女性はどうあるべき」という「固定的性別役割分担意識」が原因です。

例えば、国会議員や会社の役員は、男性が多数を占めています。テレビでは、家事をする女性、企業戦士の男性が定番です。また、仕事と家事・育児を両立する男性を「カジダン・イクメン」と感じ、同じ状況の女性を当たり前と思ってしまうこともあります。

日常何気なく目にする場面を改めて意識してみると、「固定的性別役割分担意識」が刷り込まれていること、それが決して「当たり前」のことではないことに、気付かれるはずです。

### 男らしさ・女らしさは ダメなの？

男女共同参画の推進とは、「男らしさ・女らしさ」や「男女の違い」の否定ではありません。例えば、男性がいわゆる「仕事中心の生活」を選択する。または、女性が「出産を機に退職して家事・育児中心の生活」を選択する。それらの選択に、自身も周囲も納得しているのであれば、素晴らしいことです。

しかし、例えば「男性は家庭を犠牲にしても仕事を優先すべき」「女性は結婚したら仕事を辞めるべき」などと思いつみ、家族や周囲の人に不合理な要求や発言をしてしまうことは問題です。

### 「ねば」を見直そう、

男女共同参画社会の実現に向けて誰もができること、それは個人の趣味や嗜好、進路や職業の自由な選択を阻む要因となる「固定的性別役割分担意識」の存在に気付くことです。

また、性別に限らず「独身だから残業せねば」「高齢だから引退せねば」など、人生の様々な場面で、こうした「ねば」が本心に正しいのか、今一度立ち止まって考えてみましょう。

すべての人々が、それぞれのライフステージに応じて、自分の個性や能力、志向に合った多様な生き方が選択できる…そのような男女共同参画社会の実現に向けて、私たち一人ひとりが、その第一歩を踏み出しましょう。

## 江東区男女共同参画推進センター リニューアルオープン

### リニューアルオープン

約1年間の大規模改修工事を終え、6月14日(火)に、リニューアルオープンしました。

内装は、木のぬくもりをコンセプトに、明るい雰囲気生まれ変わりました。

和室と情報資料室、音楽スタジオは、以前よりスペースを拡張しました。

設備面では、受付カウンターを事務室内からフロアーに移設しました。音楽スタジオ・レクホール・和室に壁一面の鏡を設置しました。情報資料室は、机



音楽スタジオには壁一面の鏡を設置

### 受講生の感想

- 綺麗で明るくなって、気持ちがいいです。
- 壁に鏡があって、とても使いやすくなりました。
- 居心地がいいです。
- 乳幼児同伴で、別室で受講ができて、とてもありがたいです。

また、さくらんぼ保育室で預かることができない1歳6か月未満の子どもがいる方にも、別室で講座を受講していただけるように、第1・3研修室と第1会議室にスクリーンとプロジェクトターを常設しました。皆さまのご利用をお待ちしております。

## CONTENTS

1面	◆ 見方を変えれば社会が変わる！誰もが輝ける社会をめざして ◆ 江東区男女共同参画推進センター リニューアルオープン
2面	◆ 女性のなやみとDV相談より
3面	◆ 区内企業にみるワーク・ライフ・バランスの取り組み ◆ 江東のひと(働くママ・イクメンパパ)
4面	◆ 江東区男女共同参画推進センターNEWS